

銀河めぐり [X] NGC 5128 (Cen A)

電波銀河の最も代表的なものとして、北天の白鳥座A (Cyg A) と南天のケンタウルス座A (Cen A) をあげることができる。白鳥座Aが遠方(340 Mpc)の銀河であるのに比べてケンタウルス座Aは5Mpcと非常に近いため、銀河としての見ばえは数段に勝っている。

ケンタウルス座Aは電波源としての呼び名で、銀河としてはNGC 5128と呼ばれる。銀河の位置は赤経 $13^{\text{h}}22^{\text{m}}$ 、赤緯 $-42^{\circ}45'$ 、実視等級は7.0等級で銀河としては明るいが、東京では高度 12° 近くしか上らないため観測は困難である。この銀河はE型に分類されているが、微塵による吸収帯が中央部を横切り銀河を二分しているため、極めて特異的な構造をみせている。銀河はこの吸収帯に垂直な軸の廻りをゆっくり回転している。

銀河中心に点状の弱い電波源があるが、回転軸方向にそって $7''$ (10 Kpc)離れた位置とさらにその外側 $3''$ (260 Kpc)離れた位置にそれぞれ二つの葉状電波構造を持つ。これらの領域から放出される電波の強さは南天で



最大のものである。もっともこのように大きくて強いというのは、銀河が近くにあるためで、もともとの電波源の大きさや電波の明るさとしては電波銀河の中では中程度にしか過ぎない。

銀河中心核から電波以外にも強いX線を放射している。また光もX線もそうであるが、北東に位置している電波源方向に伸びるジェット構造を持っており、中心核が現在も活動的であることを示している。(田原博人)

☆ ☆ ☆

◇ 10月の天文暦 ◇

日 時	記	事
1 12	下弦	
8 12	寒露	(太陽黄経 195°)
9 12	朔	
10 0	月	最遠
11 13	水星	東方最大離角
15 7	冥王星	合
17 13	上弦	
23 15	霜降	(太陽黄経 210°)
23 15	水星	留
23 23	月	最近
24 6	望	
31 2	下弦	

